

門真教育支援NPO (準)会報 No.2

The Expressive



2005/9/16 (Fri.) 発行

内 容

門真教育支援NPO（準）の会報2号ができました。NPO（準）の一つの表現と考えております。この会報を通じてコミュニティが生まれれば、それは楽しいのではないかと思います。今回の内容は次の通りです。お暇な折りに、目を通していただければうれしいです。

(1) 青木先生の論文

『 ～「NPO」設立を見据えた取り組みを目指して～ 』

グローバル スタンダードの視点を踏まえて考える

青木先生は現在JSステージの理事長です。またこのNPO（準）の代表幹事です。教師時代から見識が深く、私たちのリーダーでした。退職後、アメリカに何度も行かれていると聞き、是非学ばれたことを教えて頂きたいと思い、話をしてもらいました。アメリカ社会のマイノリティの教育支援は、どんな理念で、どんな活動をしているのか。私たちが日頃よく耳にし、よく見かける「自己実現」「自己選択・自己決定」「エンパワーメント」などの言葉はアメリカのどのような実状況にたって創られたのか。このようなお話は日本の学校現場で苦辛する人への実践的なメッセージとなると思います。

暑い中、文章化をお願いし、会報に掲載できました。ご感想をお待ちしております。

(2) 前期「門真っ子」はどうだったのか。子どもの感想、保護者の感想、アンケートから考えてみることにしました。

- ①子ども感想文
- ②保護者アンケートと集計
- ③保護者感想文

(3) 後期「門真っ子」の取り組みは基本的に前期を引き継ぎますが、来年度に向けての構想・具体化を準備していきたいと思えます。

- ①2005年度後期「門真っ子」活動計画と課題
- ②「門真っ子」実施計画
- ③学習内容（国語・算数）
- ④保護者への連絡

発行

門真教育支援NPO（準）

代表 沖田 謹三郎

〒571-0077

住所：門真市大橋町21-46

電話：072-883-1345

～「NPO」設立を見据えた取り組みを目指して～

グローバル スタンダードの視点を踏まえて考える

青木 重敏

{はじめに}

最近の日本における教育制度や教育内容について考えてみると、「権力サイド」の視点からの現状分析と一方的な改革案が提示され、現場では朝令暮改ともいえる矢継ぎ早の教育改革を学校現場におっかぶせてきているように思える。

学力低下の元凶は、権力側が提起したにもかかわらず「ゆとり教育にある」と学校現場に責任を転嫁したり、総合学習への批判、さらに制度として校区制の自由化、教育緒条件の規制緩和、カリキュラムを学校長に裁量権を委ねるなど、そのめまぐるしさに対応できない状況が学校現場に現実存在していることに不安を覚え、「彼ら」が目指すその改革の哲学のよって来るところを突き止めてみようという好奇心から、グローバルな見地から国外の学校現場を直接リサーチできる条件を整えた企画を含むスタディツアーへの参加を思い立った。権力側が提起する教育改革の論拠は、必ずや諸外国のそれをコピーしているに違いないと思うに至ったわけである。

府外教時代からのかかわりもあり、アメリカ教育団体との交流ネットワークを組織しこのような企画をプロモートしている NPO「JPRN」（理事長 柏木 宏氏・・・現在大阪市立大学大学院教授）にカリフォルニア州を中心にコーディネートしてもらって、アメリカの教育現場を視察することにした。また、東海岸では、ニューヨークを中心に、ラトガース大学のアンソニー カーン教授のコーディネートで、さらにメリーランド大学の多文化教育研究室のバーバラ・フィンケルシュテイン教授のお世話でメリーランド州の多文化教育の実践校を見学させてもらい、各大学のスタッフから、詳しいレクチュアを受けた。

韓国・中国へは在日コリアンが組織する「多文化教育」NPO等のコーディネートにより、スタディツアーに参加していった。

訪れた学校やそこで学ぶ子どもたちさらに教育機関のスタッフとの交流は、その一つ一つが私には新鮮な体験であり、同時に子供たちの生の姿に感動させられたものだった。

韓国、中国の子供たちの学習に対する意欲に自分自身が実に多くのことを学ばされたものだった。中国・韓国の子供達の学習への執念を見せ付けられ、うらやましい限りであったが、日本の教育とは比べることのできない苛立ちを覚えたのも事実であった。例えば、韓国の学校では「花郎教育院」などのように、韓国各地から英才を集め、徹底したエリート教育を推進する学校・・・外国留学のための事前教育を受ける学校など進学校を中心の参観が多く、趣味で参加するスタディツアーであるにしてもあまり私の興味を

引くものではなかった。むしろ、胸の中が空虚になっていくのを覚えたくらいであった。

中国の高校も、人生でたった一度しか大学受験に挑戦できないという切羽詰った状況下の子どもたちに接し、私自身が悲痛な思いをしてしまった。

両国で得たものは、必死で勉強する頼もしい子どもたちとの語り合いだった。しかも最も驚いたのは彼らとの会話は、全て日本語だったということだったが……。

エリート校の子どもたちの猛勉強ぶりは、日本でもそう珍しいことではなかったが、大学生のすさまじい勉強振りにはただただ驚くばかりであった。日本の大学生が、通学の電車の中で、コミックを読みふける様が彼らにも広く知られているところで、学生たちとの交流会ではしばしば「なぜ、大学生がコミックを読むのか」と質問され、絶句することもあった。いずれの国も、学生たちの飽くなき向学心というか、学業への意欲は徴兵制と深くリンクしていることも否めない事実であろうが……。

〔I〕アメリカのマイノリティとの交流

世界の富を集め、実質的に世界の指導者と自認する富める国アメリカというのがグローバルな評価となっているが、事実その通りであろう。

しかし、私を案内してくれた街や学校は、アメリカンドリームの花やかな舞台裏の競争から脱落した貧しき人々に満ち溢れていた。

彼らの日常の生活、そしてそんな貧しい人々の子どもの教育はどうなっているのだろうか、ということに私は大きな関心をもった。

ニューヨーク マンハッタンの活況や華やかさに目を見張ったけれど、私には、WASP (White Anglo-Saxon Protestant) 社会を覗くことは興味の外にあった。(仮に私が WASP との交流を望んだとしても彼らのほうから拒否したに違いないと確信をもっているだろうが)

その華やかな街で最底辺に喘ぎながらも、その中でたくましく生きようとしている子どもたちにどのような教育がなされているのかということに限りない興味と関心を抱くようになった。そこで、繁栄の陰の貧困社会に生きる子どもたちにどのような支援が行われているのかに照準をあわせたスタディツアーを得心の行くまで重ねてみることにした。

公立の学校しか見学していないが、100校あまりは全てチャータースクールを含む公立学校のみで、私学は0であった。

アメリカ各地の教育関係 NPO では、ヒスパニック、エイジアン、ブラック、インディアン、ラティーノの子どもたちをサポートしている施設や活動状況を見学することが出来た。

ドラッグ、銃犯罪、強盗、窃盗などなど子どもとは思えぬ犯罪を重ねてきた子どもたちをサポートしている NPO スタッフに頭の下がる思いだった。そういった、犯罪歴のあ

る子どもをキャンプ（野外活動）に60日間連れて行き、そこで学習させる取り組みは、ただただ驚くばかりの実践報告だった。これを毎年継続しているようだった。その資金は、例えば、それぞれの、同朋の富める人たちの **donation** であったり、財団からの助成金でまかなわれているものだった。

〔Ⅱ〕なぜアメリカなの？

そんな思いに駆られつつ、スタディツアーを重ねるうち、教育現場での取り組みやシステムがアメリカと日本のそれとが奇妙に似通っていることに気づきはじめた。私の関心は、アメリカのマイノリティを中心とした教育現場を訪ねまわりたいという欲求がますます強くなっていった。考えてみれば、戦後の日本の教育制度は、占領軍が持ち込んだものであることが、その類似点の発端ともいえるだろうか。

そう思った時から、私の趣味としてのアメリカへのスタディ・ツアー通いはいよいよ深みにはまり込んでいった。

悪名高いアメリカへなぜそんなに思いを寄せるのかと、「識者？」の冷やかな視線を浴びながら、いささか肩身の狭さや息苦しさを感じていたものだったが、私の興味は一路アメリカのマイノリティの教育のあり方に注がれ、知らずうちにアメリカ通いはまりこんでしまっていた。しかし、私が関心を寄せたのは、前述のようにアメリカのマジョリティ (WASP) ではなく、底辺層を形成する黒人であり、ラティーノ、ヒスパニック、エイジアンたちであった。

アメリカにはまる第三者の私への眼差しはどうあれ、その国の現実はそのまま受け入れるべきではないのか。あるがままの存在をまず認め、共感し、それを自分の中に取り込んでいくことが、私には至上のものだったから……。

多文化教育、総合学習、チャータースクール、入り込み授業、マグネットスクール、アフタースクール、ESL、習熟度別、中高一環教育、スクールガード、エンパワメント、自己実現等々は、20年以上も前から取り組まれ定着していた。そのシステムや、教育内容が、学校現場に導入されてきていることに授業参観を通して実感することができた。

大阪でもおなじみの用語や教育内容・制度の原型を見ているようで大変興味が湧き自身の勉強にもなった。

もっとも私の興味をそそったのは、貧困は低学力と深くかかわっているという事実であった。これは、国家の体制にかかわらず、共通の課題であると痛感させられた。

訪問先は、西海岸カリフォルニア州、サンフランシスコ、ロサンジェルス、バークレー、サンディエゴなど、また東海岸では、ニューヨーク、ワシントンD・C、メリーランド州などの幼稚園、小・中高等学校、大学および研究室、教育関係のNPO、教育委員

会など 100 ヶ所以上をつぶさに見て回り、「低学力」とクリンチする学校や NPO の取り組みにかかわる多くの資料が得られたのは幸いだったと今にして思い返している。

上述したような、取り組みが今大阪にも導入され、行政側も学者研究者さらには民間教育団体もアメリカのシステムに多大の関心を寄せ、学校現場でも試行されている。

本論では、日本の教育の現状との比較と制度のよって来る論拠やその課題等については詳述できないので、次号に譲りたい。

ここでは、アメリカでの「マイノリティの子どもの教育支援 NPO」の活動の現状から、私たちの目指すものは何かに触れていきたい。

〔Ⅲ〕我が NPO「かどまっこ」が目指すもの

① 「違い」の受容と共感

「助けて欲しいことや

してほしくないことは、一人ひとり違います。

勝手に決めないで、何でも私に聞いてください。

決めるのは私です。」

(ある障害者の詩集から)

一人ひとりが違っているという認識をもつことは、私たちにはむつかしいことである。一斉授業に埋没してきた者にとっては、個々異なる者へのまなざしは決して柔らかくは無いのではないかと自分に照らして、思ってしまう。

「みんな一緒に、同じ方へ向って歩こうよ・・・みんな同じ人間なのだから」と。

目の前の子どもたちは、それぞれに個性があり、そのニーズは異なり、学びの姿勢にも自ずと違った方向を向いている。

現行の学校教育の中では、異なりを排除しつつ、いわば同化の方向をたどっていかざるを得ない。そんな中で、NPO の活動をどう創るかが問われる。

NPO 準備会を立ち上げた理念として、学校教育の延長ではない、塾でもない、「できる・できない」は問題としない、などを出発点として今後のありようを模索すると言うものであった。たどり着けるのは、「人はみな違っている、その違った個性とどう向き合えるか」と言うことを理念に据えるべきではないかと言うのが私の主張である。

社会の一般的な階層としてメジャーとマイノリティに分けられるが、日本社会ではメジャー階層がマイノリティ階層にどのような視線を投げかけているだろうか。

メジャーの価値観にマイノリティを限りなく近づける作業が必要なのか、階層を固定させ互いに異なる存在としてあるがままの存在として認め、むしろ共存させる努力が必要なのか、これが取り組みの分かれ目となるのではないだろうか。

学力不振とされる子どもも限りなく普通の子どものに近づける取り組みが必要なのか、彼らなりの能力を開花させるような取り組みを創るべきかが、私たち NPO に課されたものは何かについて探してみたい。以下次号へ

私たちは学習支援を「門真っ子」として始めております。その形は、三年生三名、四年生四名と毎週土曜日、二時間、国語と算数の学習活動です。八月二十七日前期最終日、ここにやってきました子どもたちが感じたことや思ったことを書いてもらいました。ほぼ原文通りにのせております。

三年生感想文

勉強会の三年のかん字九までいけたこと。六月四日から八月二十七日までの一三回のやく二時間なので二六時間聞いた。一回目は二年のかん字二年の漢字九までした。

K・Y

こくごはあまりできないけどさんすうはとくいです。いつもおなじせんせいの方がおおくてたいくつになりました。土ようびはふつうにきています。

T・M

学校にお母さんといっしょにいったら一五分かかるからいやや。おかあさんいっしょにいっただけがいいとおもう。

M・S

べんきようままたのしかったまたべんちようしたいさんすうがすき国語きらいだからさんすう二じかんしたい十まいやつても二十やつてもいいぐらいさんすうのほうがかきでも国語もよみとりがいはいほとんどすきた

O・K

べんきよう会はたのしかった。べんきようはさいしよはかんたんだったけどだんだんむずかしくなってきた。今日は八月二十七日土曜日国語の読みテストをした。さんすうもした。むずかしかった。一時間四〇分べんきようをした。べんきよう会で友だちもできた。たのしかった。

M・A

はじめにきた時は、きんちようしました。けどだんだん楽しくなったり、いやになったりしました。友だちといっしょにいったり一人でいったり

しました。

国語　ちよつとむずかしかったけどいろんな先生が、教えてくれたので少しづつわかってきました。クラスがきまつたときいっしょに勉強したときたのしかった。

算数　算数はかんたんといつもO・Rちゃんときようそうして楽しかった。休み時間は友だちといっしょに草むらであそんでいた。小さいカメをひろってさわったことが思い出です。こんどお休みつけてきて、なんだかうれしいようなかなしいようなきがしました。勉強を教えてもらって少しづつわかったからうれしかった。

O・K

さいしよにきたときのプリントたのしかった。……つぎにきたときもたのしかったでもさいごうはんは、むずいのぼつかしであたまがカンガンになって、いやいやになったりして、でも、……やすみじかんはばりばり楽しくて……二回目がきたときは、じかんがおくれそうでギリギリセーフでまにあって、ほんでたのしいときどき、家の中で門真っ子ねむたいからいやのときもあるけど行ったらバリバリ楽しくて、なぜかしらんけど一度Kといっしょでちがうはんのところがおらんから……Kとそこにすわって、べんきよういえて、Kにさんすうのひきざんやって、ラッキーラッキーラッキーでちようラッキーでバリバリバリいいときでいまままでいちばんいいひで門真っこの中でつぎの日もきて、さいごの日のまえは、休んで、そのさいごの日もきました。

N・M

今日国語のプリントをやりました。とてもむずかしかったでも、さんすうは、かんたんやったでもすぐにやすみじかんになった。そしてさくぶんをかいた。はやくいえにかえりたくてしんどかった。さいしよは、こくごもかんたんやったけど、あとからむずかしくなっていややった。でもこのままつづける。

W・M

べんきようはおもしろくないです。でもおわったからすつきりします。国語はあまりじょうずじゃないけどさんすうはじょうずに早くできます。でも字はきたないです。たまにさんすうができなくて国語ができるときもあります。べんきようのとちゆうきゆうけいがあるのでそのとき

はすぐかたづけけてそとへあそびにいきます。でもきゆうけいがおわるとたのしくなくなつてべんきようしなきやいけません。でもやすみじかんがしたいです。べんきようもすぐすすんでやつていけることもよくあります。

M・T

今日、国語と算数をした。いつもやつているよりははじめてめつちやくちやむずかしい、もんだいが出たときめつちやくちやむずかかった。国語がむずかかった。ありのなしがむずかかった。算数は、ひきざんはあんまりまちがつていなかった。たしざんは、まだたしざんは、まだやつてないけど・・・たぶんいつこか二こまちがつていけるとおもう。かけざんのあなうめは、ぜんぶまるでした。

K・K

おもんなかった。しらががあるせんせいばかりいやさんすういやこくごいやだたのしくなかった。Tがうるさかったべんきようできないやつた。土ようびはいや。S・A

女の先生は、ちよびつとづつおしえてくれました。男の先生は、女の先生と、ちよつとにいていました。けれど、男の先生のほうが、ちよつと「とばしていき」っていうのが大かったです。算数はとくいじやないから、ちよつと、むずかかったです。国語は、とくいだから、するするかけました。

T・S

わたしは、土曜日のおべんきよう会に、いつてみてはじめは、いやじやなかったんだけどやりはじめたらちよつといやになつてきました。べんきよう会にいくときは、ちよつといやだけどついたらふつうになりました。またつづけたいです。

K・C



門真つ子のべんきようは一日も休まずにきました。けどむずかしいべんきようがありました。門真つ子は色々ありました。一回スイカをたべました。とてもおいしかったです。スイカはおいしかったので、おかわりしました。とてもおいしかったです。勉強するメンバーは、四人いました。男子が一人女子が三人いました。また勉強は十月から始まります。

Y・A

わたしは、べん強がにがで算数がきらいです。でも漢字をおぼえたりするのがすきです。とくに算数の時刻と時間がだいのにがで時こくと時間のべんきようをやるかならずまちがえたり、わからないところがあるのです。でもわからないところを教えてくれるからだんだんわかってきます。こないだはすいかをみんなで食べたりして楽しかった。さいしよは、べん強会でべん強をするのがいやだたけどやつたら楽しかった。九月はお休みだからちよつといやでも十月になったらできるからたのしみです。

T・M

門真つ子のべんきよう一回休みましたが門真つ子のべんきようは、分からないことかをおしえてくれたりしてたのしかったです。せんしゅうスイカを食べてとてもおいしかったです。スイカがおいしくて二回おかわりしました。十月はあまりできなかったべんきようがもつとできるようになりたいです。

K・R

はじめにきた時は、友だちを十人かいたりしていつて終わりました。次の時には、クラスがきまっています。クラスには、MくんとMがいました。二人とは三年生になつて同じクラスなのでよかつたけど中に一人五月田小学校の子もいたので、どうやつて友だちになろうかとおもいます。そうやつて思つたらべん強がはまりました。国語は、るいがすきでもきらいでもありません。さんすうは、るいが一番すきな、きよかなのでよかつたです。そうやつて土ようびには一〇時から十二時までべん強して、八月二七日までがんばりました。つぎは九月中は休みなので一〇月一日にまた、みんなとべん強をしたいです。

O・R

四年生感想文

門真つ子に入ってよかったと思う。勉強になったと思う。けど、もうちよつと英語がしたい。国語があんまりできなかったけどできるようになった。問題は、やさしいところもあるけどむずかしいところもあった。わからないところがあつてもすぐおぼえられる。スイカがおいしかった。パイナップルもあつたけどスイカを食べた人は食べられなかった。

S・J

勉強会で、やったプリントを、家にもつて帰ったみせたら、「助手」って読むのを、ゆかが「じよす」って書いてて○やったから、お母さんが、「なんで、助手を、じよすで、マルやねん」って笑ってました。それで、先生だれやったん？って聞かれて、Nさんって、ゆつたら、先生も先生やって、また、大笑いしました。勉強会が、国語と算数だけじゃなくて、学校で、習ってるぜんぶの教科を、門真つ子でやりたいです。それやったら、うれしいけど・・・。それで、勉強会でM先生一度もゆかの所にきてくれなかったの、さんねんでした。一〇月からはM先生がきてほしいです。

N・Y

来れなかったときもあつたけど、来たときはとても楽しかったです。彩奈あまいものがきらいです。そしてつめたいものはあんまりたべません。だからアイスクリームはぜつたいにたべへん。

T・A

私は、入学の時どきどきしながら入学しました。勉強の時にはさいしょはかんたんだったからうれしかったの、勉強と思つてた。けど、だんだん勉強がむずかしくなっていくのでさいあく勉強です。コンパスをつかう時は楽しいです。けど毎週毎週がんばつて行つてるとお母さんに「がんばつてるな」「よくできてるな」ってお母さんによくほめてもらつてます。勉強はむずかしいのはあたりまえだからがんばつて行つて。勉強はがんばつていたらたのしいからともだちもいるし先生もいっぱいいるからうれしい。朝に行くのはいやだけど昼にいったらともだちとあそべないのだから毎週毎朝がんばつて行つて。なぜがんばつてるかとやうとあたまをやわらかくしたいからだからばんきようきらいだけど、

・・・。がんばつてたのしくなつてくるからうれしいだから毎週毎朝いつてくるのもたのしいな！ 先生 これからもよろしくおねがいします。

H・M

私は、一番さいしょは、勉強がいややなどおもつていたけれどこのばんきようをはじめたのしかつたです。くるみは、十一回しかいってないけれどたくさんおべんきようできてよかつたです。理科、社会もだしてほしかつたです。そしてかどつまつてきたらからのおともだちがいました。しくだいいもだしてほしいそしてかどつまつてから家に帰つたらお母さん、いもうとからがんばつたなつて言われて自分の中では、あともうすこしとおもつています。そしてろうまじもだしてほしかつたです。おんがくもだしてほしかつたです。そして学校でならつていないやつもあつたのでとてもよかつたです。

F・K

わたしは、今までにやった国語の、中でも一番むずかしかつたのは、主語と述語がとくにむずかしかつたです。でも、といていつたらかんたんでした。国語でにがてなやつは、せつ明文です。だから、せつ明文をとくいにしたいから、もうちよつと、せつ明文をふやしてほしいです。問題は、もうちよつと、むずかしくしてほしいです。今までにやった算数で一番かんたんだったのは円と球です。算数では、問題がともかんたんでした。だから、もつと問題をむずかしくしてほしいです。わたしは、国語と算数ドッチが好きかと言つると算数の方が好きです。

H・Y

すいかをいっぱい食べておいしかった。ぜんぶできなかったそれでも家でしなかつた。色いろおしえてもらった。かんたんなばんきようむずかしいばんきようがあつたのしかつた。そろばんも五きゆうになれるようにがんばります。すぐたのしかつたそろばん五きゆうになつても兄ちゃんといっしょの三きゆうになるまでがんばりたいです。ばんきようもがんばります。五年になつてももつとがんばります。もつともつとがんばります。

K・H

一回目は、どきどきしました。「どんな事だろう？」と、思いました。二回目は、チームをきめてしました。全員している人たちでした。そ

の時から、勉強が、好きになれました。これからも、もっともっとがんばれるようにがんばります。五年生になってもやってください。もっともっと中学生にも、なった時にも、やっというてほしいです。おねがいます。もっともっとできたなら長く長く続けてほしいです。この会はとも楽しいです。

U・E

私は、門真っ子に行つてとてもよかったです。勉強はともわかりやすく教えてくれるし、とき時食べ物もだしてくれます。しかも、先生はともやさしいし、なんといつても無料ですから、先生には、すぐなれました。知ってる先生も何人かいたし、沖小からいろいろな先生がいました。このおかげでだいぶ国語・算数がとくいなになったと思います。これから運動会で九月は休みだけど、十月からは、今まで以上に頑張ります。また、五年からも行けることなら行きたいです。

S・M

べんきようはむずかしかったためんどくさかったうれいことやたのしいことはあんまりなかった。プリントは多いしみふめいなもあつたしもううんざり

S・T

私は「NPO」に行くのをいつも楽しみでした。国語は、学校ではふだん習わない、言葉のしくみを勉強しました。おかげで、しゃべる時、書く時など、べんりになりました。また、知らない言葉とも出会った時は、先生が、一つ一つわしくせつ明してくれました。そうやって、新しい言葉に出会ったり習ったりすることは、とてもうれしくて、「早く習いたい」という気持ちでした。算数は、学校でよく習したやつと同じだけれど、ひっかけ問題や、文章で答える問題がちょこちょこ出てきたので、その時は、力だめしになりました。算数の中でも、分秒を競い合う計算が好きでした。いい勝負相手は『Sさん!』きそうと、「次はがんばるぞ!」とか、自分もえるので十月からの算数にも「計算は入れてください!」私は、図形が好きなので、みんなで、さいころ作りなど工作がしたいです。「NPO」は、朝なので勉強がはかどるし、友だちとも楽しくできて、自分のペースでできるところが大好きです。

P S ハガキの書き方や、しっかり勉強するのでさし入れまた下さ

い!!

M・C

今日、学びのまち門真っ子は少しの間休みです。うれしかったこと、コンパスのべんきようをとくいなになったことです。この学びのまち門真っ子にきてすこし算数がすきになりました。クラス名前前四年M組です。にがてなのは算数の文しよう問題です。これまでおしえてくれた先生はI先生とO先生とH先生がおしえてくれました。一回だけ休みました。

F・N

六月四日から学びのまち門真っ子で勉強して学校とは、ちよつちがう勉強の仕方もありわからなかったことはいっばいあつた。国語と算数を教えてもらつてよかつたと思つて。国語がにがてで一人ではできないと思つて。先生たちに色々おしえてもらつてにがてな国語もなんとかできた。算数はとくいなはずがなかなかできないところもあつた。O先生やI先生がたくさんおしえてくれた。スイカを食べべられてよかつた。前きは楽しかつた。後きもがんばります。青少年センターでやつたり沖小の家庭科室でやつたりした。お母さんはまなびのまち門真っ子にいつていることをとつてもよろこんでいる。いつも勉強はしてこうかいはいせいへんで!つていつているお父さんも同じことを毎回いつている。自分でもけつこうできるよつになつたかな?とおもつている。まなびのまち門真っ子にきていて楽しかつたです。

M・A



NPO「門真っ子」保護者の皆様へ

2005/8/20

NPO(準)代表

沖田 謹三郎

私たち門真教育支援NPO(準)による「門真っ子」の勉強会は次回8月27日で前期を終わります。12回の勉強会を開きましたが、子どもたちにとってどうだったでしょうか。また保護者としてどのような感想を持たれたでしょうか。後期は10月1日から始めますが、皆様の意見や考えも取り入れて後期の活動としていきたいと思い、アンケートをとらせて頂きます。

お返事は8月27日の「門真っ子」の時に持たせてください。

- | | | |
|----|--|--------|
| 1 | 子どもの連絡表『門真っ子-あゆみ』は毎回目を通してている。 | はい・いいえ |
| 2 | 子どもが「門真っ子」に出かける時には送り出している。 | はい・いいえ |
| 3 | 子どもが帰って来たときに、誰か家に居る。 | はい・いいえ |
| 4 | 「門真っ子」への登下校は安全・安心でしたか。 | はい・いいえ |
| | *危険だと思われたのはどのような事でしたか。(.....) | |
| 5 | 子どもと一緒に、習ったプリントをする事がある。 | はい・いいえ |
| 6 | 「門真っ子」での子どもの様子を見たことがある。 | はい・いいえ |
| 7 | 子どもは「門真っ子」に行くことを楽しみにしているように見える。 | はい・いいえ |
| 8 | 子どもは「門真っ子」での勉強が分かっているように思う。 | はい・いいえ |
| 9 | 子どもは「門真っ子」の勉強の仕方に満足しているように見える。 | はい・いいえ |
| 10 | 子どもは「門真っ子」の先生を気に入っているように思える。 | はい・いいえ |
| 11 | 子どもは国語・算数以外も勉強したがっている。 | はい・いいえ |
| | *「はい」と答えられた方は何を希望されますか。分かれば書いてください。(.....) | |
| 12 | 「門真っ子」で勉強しているプリントは難しいと思える。 | はい・いいえ |
| 13 | 「門真っ子」は土曜日に開いているが、これでよいと思う。 | はい・いいえ |
| 14 | 「門真っ子」は2時間の勉強だが、これぐらいがいいと思う。 | はい・いいえ |
| 15 | 「門真っ子」では、勉強とは別の取り組みがあればいいと思う。 | はい・いいえ |
| | *「はい」を答えられた方で具体的にあれば書いてください。(.....) | |
| 16 | 休みの時はプリントを近くの子どもを通じて渡していますが、必要ですか。 | はい・いいえ |
| 17 | 現在、子どものことで相談したいことがありますか。 | はい・いいえ |

感想(何でも結構です)をお書き下さい

.....

.....

.....

.....

.....

.....

()年()組 氏名 _____

NPO（準）前期の反省と後期の活動

(1) 青木先生の講演（論文）から学ぶ

私たちは普段いろんな雑誌や論文の中で見たり、使ったりもする言葉があります。例えば「エンパワーメント」「自己実現」などですが、これらの言葉はどんな意味をもっているのか、それが示している実状況は何か、こんな事を十分理解しないで使ってきているように思います。

青木先生は「これらの言葉が表す理念はどんな学校での実践の中で生まれたのか」「そんな学校で学ぶ子ども達はどんな子ども達なのか」、このような事について先生自身が数十回渡米されて経験され、また思慮された中から話をして頂きました。私たちが十分理解できたとは言い難いのですが、私が聞いて思ったことがあります。一人の感想として読んでみてください。その時のお話はこの会報用にもう一度書いて頂きました。是非お読み下さい。

- ① 教育における「global standard」とはアメリカ発である。
- ② 「エンパワーメント」「自己実現」「自己決定・自己選択」「セルフエスティーム」「自分探し」「自学自習」「プレゼンテーション」「多様性」「インクルージョン」「開かれた学校」「情報化」「入り込み」「アイデンティティ」など、これらの **global standard** = 教育理念はアメリカにおける「チャータースクール」「マグネットスクール」「アフタースクール」など、それぞれの「学校」における固有の実践的教育理念だということです。
従って「一般的」「普遍的」に理解するのではなく、それぞれの学校の生徒達の実状況の理解・把握の上に立って理解されなければならない。
また「参加型学習」という学習の形も「総合学習」（＝カリキュラム選択）における学習の形だと把握されるべきである。
- ③ 日本の公立小中学校には固有の **Japanese standard** というべきものがあるのか、どうか。青木先生の話は「それは何なのか。考えなければならない。検討もしなければならないよ」という風に聞きました。
私たち日本の学校の **standard** とは何と考えるといいのでしょうか。
 - (1) 「画一・均一的」・・・均一なクラス・画一な授業
 - (2) 「集団主義・同化」・・・集団的な行動様式・決定の仕方・校則
 - (3) 「平等（機会均等）」・・・全員入学・全員卒業・全員参加
 - (4) 「国家的」・・・全国一律の指導要領となるのではないかと考えます。これらは日本文化の特質とも言えます。
日本では公立の小中学校が主で、そこで学ぶ生徒の殆どが日本人です。また所得格差が世界的に見て、最も小さいという学校の実情に沿っている理念でしょう。
- ④ 私たち門真の学校での「一斉授業」「班活動」「体育祭・文化祭」「宿泊・修学旅行」或いは「地元集中運動」なども日本型理念に基づいている。

- ⑤ この日本型理念が問われたことはないのか。そう考えられる現象が現れたのは 80年代で、「問いかけ」の形は「校内暴力」「いじめ」「不登校』『学びからの逃走』(佐藤 学) などとして現れたと考えられます。でも、これは個々の取り組みや教師の力量が問われているだけでなく、学校の、教育の理念が問われているというふうに理解されなければならないでしょう。
- ⑥ 「問いかけ」に対して、おおざっぱに言うと、『新しい学校共同体を構築している』という方向と『新たな個人の確立(自立する個人)をめざそう』とする方向の二つが示されてきたのではないかと。
佐藤学(「学びの共同体」)、矢野洋(美原西中学校)は前者で、武藤義男(「やればできる学校革命」)は後者である。
- ⑦ 私たちがこの10年、実践的な教育理念としてきたのは「自立」である。
私たちは80年代の「荒れ」との取り組み、96年の地元集中運動の中止を経てこの理念を創りだしてきた。
- ⑧ 80年代の荒れは「生徒は何を求めているのか」という問題であったと理解しています。私たちが掴んだ答えは「(自己)表現」と「基礎学力」でした。
「地元集中」中止の意義は「個人の尊厳」という価値を教育にうち立てるということとして理解しました。学校の実生活に一人の考え・決定がそのまま認められる場面があるのだろうか。否。例えば生徒会は本当に自主的なのか。否。
「自己選択・自己決定」の場面を作ろう。「勉強」においても「クラス」においても一人の意志が仮(建前)でなく真に尊重される機会を設けよう。
日本社会と同質の a collective decision-making system とは異なる「個人決定の尊重」を実現する中で「個人の尊厳」は生きてくると思います。
- ⑨ このようにして生んできたそれぞれの「理念」をまとめると「自立」となると思います。私たちの教育理念はアメリカ発 global standard -多民族・多人種が混在するアメリカの厳しい公立学校現場の実状況に立って創られてきた理念とは異なります。しかし、文科省の『生きる力』論や大阪の最近の解放教育などは明らかに、このアメリカの教育理念の影響を受けている。私たちはそれらから学びましたから、そういう意味では私たちもまた、大きな影響下にあるといえます。
- ⑩ 私たちの理念が実際の場面で本当に生きているのか。そうならないのが日本の学校の姿で、私たちもそれで違和感がない。

2005 年度門真教育支援 NPO（準）後期の活動計画と課題

8月30日、後期に向けて、NPO事務局会議を開きました。その中では後期の取り組み・課題を検討しました。大体の構想はできておりましたが、その後、9月16日の総会での「論」・「談」を踏まえて再検討して、後期の活動・課題を次のように設定しております。

(1) 「門真っ子」について

- ① 「門真っ子」は子ども・親の希望を組織しています。その目的は「学習支援」です。
- ② 学習支援は「国語」「算数」としています。学習の形は「生徒4人・指導者一人」でクラスを作っています。その中の4つのクラスは指導者2名にします。
- ③ 学習教材は国語は「語彙・文法・読解」を中心としたもの、算数は「計算・思考問題・文章題」を中心としたものを使います。

国語は大阪児童言語研究会の教材、算数は藤岡先生が東小学校時代に作成・実践されたものを改訂したものです。

国語については加えて、「作文」のための原稿用紙を用意します。「表現」する目的です。また「音読」するための作品を用意します。

- ④ このプリントは各時間3～4枚用意しております。そのプリントすべてをやり終えて欲しいのですが、全部しなければならないわけではない。かといって適当にお茶を濁していいわけではない。
- ⑤ 子どもの感想には『国語プリントが難しい』というものが多いです。殆どの子どもはやり遂げてきていますが、ある子どもは隣の子どもの答えを写したりします。または指導者がほぼ答えを教えてしまっている。ということもあります。これは学校の現実がソフトになっているだけのように見えます。「感想」が書けない子どももいます。

この状況において、「教材をその子ができる簡単なものを使おう」「今のプリントが一枚でも、半分でもできればいいのではないか」とやむを得ず「回避」し、再び「回避」する、と繰り返していくことでいいのだろうか。

あるいは「その子どもへはNPO会員が一人添っていく」と手厚い指導体制をつくるのは必要なことだけでも、それは「保護」しているだけのことにならないだろうか。「壁」を乗り越える喜びをなくしてしまっているのではないだろうか。このように、いろんな見方ができるし、いろんな検討を加えて、本質から問い直していきたい。

- ⑥ 『学校でもない』『塾でもない』という理解の下、この「門真っ子」に取り組んできましたが、私たちには「学習支援」の理念をもう少しはっきりと持つことが課題であるといえます。また「学習」というとき、「学習」とは何なのでしょう。か。

「何を学習するのか」「学習＝記憶なのか」「学習の意味・役割は」少なくともこん

なことは考えていかねばなりません。私たちには「教科書」も「指導要領」も「受験」もないわけですから。

青木先生の話の中にアメリカの Charter school の紹介がありました。「認可学校」とでもいうのでしょうか、市民が教育委員会から認可を受けて学校を地域に開設するのです。当然何を学習するのかということが申請には必要です。「こんな学校を、こんな学習を作っていこう」となります。認可されたら予算がついて運営していきます。

NPOが「学習支援」として子どもたちと共にやっていくという試みには同じように『私たちは学習をこんな風に考えて、こんな形でその支援に取り組みます』と表明できなければならないと考えます。

NPOとして学習支援を行うには、そこをはっきりさせていかないと、学校の「補完」、あるいは「無料塾」となってしまうでしょう。

後期の間に検討し、試行しながら、少しずつ進んでいきましょう。

(2) 相談活動

- ① 「学習活動」に加え「相談活動」も行う。「相談」への依頼について、保護者に希望があれば土曜日に行う。事前に申し込みを受けてスタッフを選びます。
- ② 親からの要望のあった見学については10月29日(土)に行います。

10/29(土) 10:00～11:30 見学
 11:30～12:00 意見交換

(3) 会報発行・研修会開催

- ① 会報をできれば月一回発行をめざします。原稿をお寄せ下さい。
- ② 様々な研修会がひらけるように思います。企画をしてみます。具体化すればご案内さしあげます。どうぞ参加下さい。

2005年度 後期 「門真っ子」実施計画

10月		11月		12月	
1	土 後期第一回門真っ子	1	火	1	木
2	日	2	水	2	金
3	月	3	木 文化の日	3	土 門真っ子(10)
4	火	4	金	4	日
5	水	5	土 門真っ子(6)	5	月
6	木	6	日	6	火
7	金	7	月	7	水
8	土 門真っ子(2)	8	火	8	木
9	日	9	水	9	金
10	月 体育の日	10	木	10	土 門真っ子(11)
11	火	11	金	11	日
12	水	12	土 門真っ子(7)	12	月
13	木	13	日	13	火
14	金	14	月	14	水
15	土 門真っ子(3)	15	火	15	木
16	日	16	水	16	金
17	月	17	木	17	土 門真っ子(12)
18	火	18	金	18	日
19	水	19	土 門真っ子(8)	19	月
20	木	20	日	20	火
21	金	21	月	21	水
22	土 門真っ子(4) 沖小学校	22	火	22	木
23	日	23	水 勤労感謝の日	23	金 天皇誕生日
24	月	24	木	24	土
25	火	25	金	25	日
26	水	26	土 門真っ子(9) 沖小学校	26	月
27	木	27	日	27	火
28	金	28	月	28	水
29	土 門真っ子(5) 門真っ子見学会	29	火	29	木
30	日	30	水	30	金
31	月			31	土

1月		2月		3月	
1	日	1	水	1	水
2	月	2	木	2	木
3	火	3	金	3	金
4	水	4	土 門真っ子(16)	4	土
5	木	5	日	5	日
6	金	6	月	6	月
7	土	7	火	7	火
8	日	8	水	8	水
9	月 成人の日	9	木	9	木
10	火	10	金	10	金
11	水	11	土 門真っ子(17)	11	土
12	木	12	日	12	日
13	金	13	月	13	月
14	土 門真っ子(13)	14	火	14	火
15	日	15	水	15	水
16	月	16	木	16	木
17	火	17	金	17	金
18	水	18	土 門真っ子(18) 沖小学校	18	土
19	木	19	日	19	日
20	金	20	月	20	月
21	土 門真っ子(14) 沖小学校	21	火	21	火 春分の日
22	日	22	水	22	水
23	月	23	木	23	木
24	火	24	金	24	金
25	水	25	土 門真っ子(19)最終回/閉校式	25	土
26	木	26	日	26	日
27	金	27	月	27	月
28	土 門真っ子(15)	28	火	28	火
29	日			29	水
30	月			30	木
31	火			31	金

保護者の皆様へ

2005/9/16

門真教育支援（準）NPO

代表 沖田 謹三郎

後期「門真っ子」のご案内

後期「門真っ子」は別表の通り10月1日（土）から始めます。前期同様ご協力よろしくお願いいたします。

また前期「門真っ子」へのアンケートをありがとうございました。お答えの中から「登下校」の安全につきましては「危なかったこと」は一件もありませんでした。私たちもホッとしましたが、今後とも注意を要することですのでよろしくお願いいたします。

これまで子どもたちが何を感じ、どう思ってきたかは「感想文」をご覧ください。私たちもこれらの感想文から多くを考え、後期の取り組みに活かしていくつもりです。

また、アンケートの中に「門真っ子を見たい」という要望がありました。それにつきましては、次のように計画しております。どうぞおいで下さい。

見 学 の ご 案 内

日時	10月29日（土）	10:00～11:30	見学
		11:30～12:00	懇談
場所	沖青少年活動センター		

さらに 子どものことで相談したいとお答えになった保護者も数名ございます。それで、相談を要望されるようでしたら、下の用紙に書いて子どもに持たせてください。

日時・場所についてはこちらから返事させていただきます。

----- 切り取り線 -----

相 談 申 し 込 み

()年 氏名 ()

相談したい事は

(相談内容は、こちらでスタッフを決めます都合上、書ける範囲で書いてください。)